

早産児や病気のある赤ちゃんを手厚くケア

NICUを新設

産科、小児科医 助産師ら運営 府内ネットにも対応

阪大病院は早産児や病気を持って生まれた赤ちゃんを手厚くケアしながら成長をサポートするNICU(新生児集中治療室)3床が昨年12月、厚生労働省から認可されました。

厚労省が3床認可



治療を受ける新生児(分娩育児部)

早産や双子、三つ子などの多胎早産児や発育が悪く低体重で生まれてくる赤ちゃんは適切なケアをして育てないと正常な発達ができません。

NICUはこのよう な赤ちゃんの治療をしながら、適切な栄養管理を行い、正常に成長するように24時間体制で見守る新生児のための集中治療室です。 阪大病院ではリスクの高いお産を数多く扱っていますので、NICUを必要とする赤ちゃんも比較的多く生まれていました。これまでに阪大病院の重症未熟児室ではNICUと同様の治療、ケアのできる設備はありませんが、助産師や看護師の増員を図る等の努力を行い、厚労省のNICU認可基準に合うようになり、認められたものです。

生前から産後、新生児と母親にどのように対応するかの検討もしています。 阪大病院のNICUは分娩育児部の新生児病棟にあるので、母親がいつでも赤ちゃんの様子を見ることができ ます。 阪大病院には小児外科や小児循環器、小児神経の専門家もおり、複数の病気がある新生児や一般のNICUでは対応できない新生児の治療、ケアも行うことができます。

阪大病院でNICUが認可されたことで、大阪府内にあるNICUのネットワークにも正式に加わりました。他のNICUでは対応できない症例やNICUが緊急に必要になったときなどにネットワークを通して24時間体制で対応できるようになりました。 今年4月からはNICUをさらに3床増床の予定です。未熟児や病気を持った赤ちゃんの治療、ケアをさらに充実していきます。

病院情報システム更新

過去の病歴、画像が瞬時に

阪大病院では薬の処方や検査の依頼などをコンピューター管理していますが、1月からシステムを新しくしました。システム更新により、電子カルテ機能が導入されることになり、患者さまの病歴や薬歴などを一括管理して、より質の高い医療を行うことができるようになります。なお、料金支払窓口で現金自動支払機を設置しましたが、お支払いの際にお待たせする場合があります。ご迷惑をおかけしております。 早急に改善するよう努めます。

阪大病院においては、これまで外来での患者さまの情報、薬の処方せん、放射線、血液検査などの各種検査のオーダーはコンピューターによって行われていました。入院患者さまの各種検査、点滴や注射、処置手術などのオーダーもコンピューターにより管理されてきました。また、さまざまな医療材料や備品の管理も

行っていました。 今回のシステム更新ではこれらのオーダーに変更はほとんどありませんが、コンピューター機器とソフトが新しくなったことにより、より早く、効率的に行えるようになりました。 新システムの大きな特徴は電子カルテを各外来や病棟、中央診療部などで共有できるようになったことです。 新システムでは患者さまの阪大病院における過去の情報が整理されて画面に表示されます。具体的には、患者さまが処方されている薬、どのような検査を受けてきたか、その結果はどうであったか、処方された薬による副作用があったかなど、どのような治療が行われていたかなどの情報が診療科の壁を越えて把握できるようになりました。

患者さまが外来を受診されたときに、担当医が手元のコンピューターを操作するだけで瞬時にこれらの全データが表示されます。診察時間が短い外来で患者さまの病歴などを素早く把握することができ、また、過去のデータのデータがすべてわかることで、他科が処方した薬や検査の重複を防ぐことができ、安全で患者さまに負担の少ない医療行為を行うことが可能になります。

電子カルテにはレントゲン写真やCT検査、MRI検査の結果も取り込まれています。簡単に3次元画像



新システムで電子カルテと検査画像を同時に表示して患者さまに説明できるようになった

また、これから新しい機能が追加される予定です。入院患者さまのベッドサイドで測った体温や血圧などのデータをその場で入力して、電子カルテに取り込むことができます。また、輸血する前には、患者さまに予定された輸血パックであるか確認する機能を持たせます。 阪大病院では一つの疾患に関して標準的な治療を行うクリニカルパスという方法を取り入れています。これまでは、計画書を書いていましたが、これも電子カルテ上で行うことができるようになります。

電子カルテにこれらの情報がすべて書き込まれることにより、阪大病院を受診される患者さまのデータを簡単に分析することが可能になります。データを分析することによって、ある疾患に関して、どのような治療が効果的なのかを明らかにすることができ、また、このシステムでは、医療で使われる薬や材料などの物品を管理したり、経営の状態を細かく分析するなどの機能を持たせ、病院のマネジメントを支援します。

阪大病院のホームページがリニューアルされました。 外来診療のスケジュール表を見やすく、各種のご案内を充実いたしました。(http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/)

インフォームド・コンセントに関する討論会

「インフォームド・コンセント(説明と同意)と医療訴訟」をテーマにした第7回大阪大病院フォーラムが昨年10月13日、大阪地方裁判所との共催で行われ、本院と近隣病院から約350人が参加しました。

裁判官からは医療裁判の一連の流れ、現状、医療訴訟の早期解決のための新しい取り組みなどに関する説明がありました。患者さま側と医療側弁護士双方から、医療訴訟となったケースにおけるインフォームド・コンセントに関する問題点などが紹介されました。

また、本院の医師が実際の手術や検査などに関して患者さまに説明する際に経験する難しさや疑問点について発表し、裁判官、弁護士、参加者を交えた熱心な討議が行われました。

接遇マナー学ぶ

第8回大阪大病院フォーラムが12月13日、医学部共通講義棟で開かれました。医療従事者が患者さまはお客さまであるという意識を持つことが大切であることから、「お客さまに対する接遇マナーについて」をテーマに、全日空客室本部関西客室部客室乗務員インフライトマネジャーの河合有加子さんに話していただきました。

本院の医師や看護師ら約290人が参加。河合さんから、お客さまの満足レベルを決める信頼関係や感動などについて解説があり、最後に、参加者がペアとなって、簡単な接遇実習と笑顔体操を行いました。

クリスマスコンサートに300人

クリスマスコンサートが12月22日、病院外来エントランスホールで開かれました。入院中の患者さまにもクリスマスムードを味わってもらおうと、病院職員有志とボランティアが企画しました。



会場にはクリスマスツリーが飾られ、車椅子で点滴を受けながらの患者さまやベッドに寝たまの患者さまなど約300人が参加。

第一部は、医師による「冬のソナタ」などのバイオリン演奏、看護師長合唱団によるクリスマスソングのコーラスがあり、スクリーン上の歌詞に合わせて楽しく合唱しました。第二部は、プール学院中学校吹奏楽部3年生有志が聖歌や長瀬剛の「乾杯」などよく知られた歌を演奏。患者さまは手拍子を取ったり、口ずさんだり、コンサートを楽しんでおられました。

質問箱

Q 予約センターで予約は取れますか。

A 予約センターは主治医がお取りした予約の変更、キャンセル及び予約内容の問い合わせが主な業務です。新たな予約を取ることはできません。初めて受診される方、他の診療科を受診される方、診療を長期間中断して、再開される方、予約日時を過ぎてしまった方は予約なしで受診していただくことになります。

診察や検査後、次回診察が必要な患者さまには主治医から説明がありますが、領収書下部にある予約票で次回の予約を必ず確認してください。

初診の患者さまの診療予約は地域の医療機関の医師から保健医療福祉ネットワーク部 (<http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp>) を通して行うことができますので、ご利用ください。

循環器内科

ハート・コール 2月スタート 地域の医師の相談に即応

阪大病院では地域の医療機関との連携を密にするため循環器病(心臓病)について、地域の医師からの相談に専門医が電話で24時間体制で応じる「Heart Call(ハート・コール)」を2月から始めます。心臓病の治療

は時間が勝負と言われているので、ハート・コールの設置により、より多くの患者さまが質の高い治療を早急に受けられるようになると期待しています。



心臓カテーテル手術

24時間体制で 胸の痛みなどを訴えて家の近くの開業医を受診される患者さまもたくさんおられます。しかし、胸の痛みが心臓の病気が原因と考えられるときに、開業医が心臓の専門家でないと、緊急に治療が必要かどうかの判断を下し

にくい場合がありま す。また、心電図や心エコーなどの心臓疾患を診断するための医療機器がなく、胸の痛み の原因が確かめられない場合もあります。心臓の病気が心筋梗塞を起こすなど緊急の治療を要することもあり、できるだけ早く循環器専門医の判断を受けた方が、患者さまを安全に治療できる可能性が高くなります。

自己血輸血を促進 輸血部 医療の安全、質の向上支援 阪大病院輸血部は手術時の輸血などによる副作用が起きないように、血液型の検査を厳密に行い、血液製剤を適正に管理し、自己血



輸血により副作用が起った時には、どうして起ったかを検証し、一度と起らないように対応策を講じています。輸血に使われる血液

輸血率のアップを目指すし、医療の安全と質の向上を支援しています。輸血部の第一の業務は血液型の検査です。

平日はもちろん、日曜祝日も24時間対応できるようにしています。担当医は電話で受け持っている院内携帯電話に直接電話をして、症状などを伝え、相談できるシステムです。専門医を探す時間を節約でき、早急な対応ができます。ハート・コール担当医は当番制で、

平日はもちろん、日曜祝日も24時間対応できるようにしています。担当医は電話で受け持っている院内携帯電話に直接電話をして、症状などを伝え、相談できるシステムです。緊急な入院、治療が必要なときには、入院用ベッドを確保するとともに、心臓カテーテルなどの検査がすぐ

ハート・コールは当初、近隣の地域医師会との間でありますが、徐々に範囲を広げていきたいと考えています。意識がないなど重篤な心臓病の患者さまはこれまで通り高度救命救急センターへ救急車により直接搬送されます。

第1回臨床研修指導医養成講習会 協力病院含め39人参加

今年度から実施された新たな医師臨床研修制度では、臨床研修指導医は研修医に対する指導を行うために必要な経験及び能力を有し



熱のこもった研修が行われた臨床研修指導医養成講習会

ている者でなければならぬこととされています。さらに、プライマリ・ケアの指導方法などに関する講習会を受講していることが望ましいとされています。阪大病院では、12月

4、5日、千里阪急ホテルで第1回臨床研修指導医養成講習会を開催しました。ディレクターに近畿大学医学部医学教育センターの松尾理教授、チーフタスクフォース

存血液を輸血します。患者さまの血液です。副作用の危険性はゼロといっても過言ではありません。現在、月に60、70件

患者さまから採血を行っています。しかし、輸血全体に占める割合はまだ1割程度です。というの、自己血輸血の採血をするには5週

間ほど前から採血を行わなければならず、緊急手術の多い、阪大病院では自己血輸血率を上げるのは容易ではありません。しかし、整形

外科など計画的に手術をできる診療科では自己血輸血率を上げ、全体として5割程度までには上げたいと考えています。